

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 藤英会

I. 施設理念

～ のびのび 明るく 穏やかな暮らし ～

II 施設方針

1. 一人でも多くの方に<家としての暮らしの場>を提供することが私たちの使命です。
2. スタッフは<心をつなぐ>にし、ご利用者様の暮らしに寄り添ってまいります。
3. ご利用者様のお話しを丁寧に聞き、ご家族参加型の施設運営を目指します。
4. 地域の皆様に、お気軽にご利用いただき、また育てていただけるよう取り組んでいきます。
5. スタッフ一人一人の<やる気>と<向上>を支援するためのシステムを整えております。

III. 事業方針

コロナウィルスが国内で初めて確認されて3年、5月8日以降「2類相当」から「5類」に移行する方針が発表されました。

マスク着用も個人の判断に委ねることになりますが引き続きマスクなど適切な対応が必要とされる中に高齢者施設も含まれていました。

このため介護施設ではひきつづき感染対応を行わなければなりませんでした。

アフターコロナを迎える中、変化した地域のニーズをいち早く捉え必要とされるサービスの提供を行い、地域の信頼を得る努力をしてまいりました。

「支え手不足」が叫ばれる中、新たに新卒者3人を迎えることができました。

人員の心配がないことを当たり前と思わず、今まで以上に働きやすく、やりがいのある職場を目指しました。

職員ひとり一人の自己研磨による介護技術の向上を目指し、利用者様の立場に立ち気持ちを汲み取れる介護のプロを育成するように努めました。

IV.事業目標

- (1) 利用者様の生活と人権を擁護するため誠実なサービスを提供しました。
- (2) 清潔な環境の中で安心・安全な日常生活を過ごして頂けるように支援しました。
- (3) 専門職の連携を図り、知識を生かしながら身体機能の維持向上を図りました。
- (4) 自然災害と感染症のBCPおよびBCMを策定し緊急事態時に備えました。
- (5) 各部署の努力により稼働率を上げ、高稼働率の維持につなげようとしたましたがコロナクラスター発生があり影響を受けました。

V.事業実施計画

(1) 介護老人福祉施設事業

① 必要なケアが必要な人に

時代のニーズを的確にとらえ必要な人に必要なケアを提供することで地域の役に立つ社会福祉法人としての役割を担うよう努めました。

② 未来を語る施設づくり

2030年開設20周年をめざし、自分たちの手で理想の施設づくりを目指しました。どんな施設であれば利用したいのか、どんな施設であれば誇りを持って働けるのか『未来プロジェクト』で話し合い実現に向けて努力しました。

③ SDGs および脱炭素活動の輪を地域に広げます

川崎市主催の「スマートライフスタイル大賞」の『最優秀賞』と「脱炭素チャレンジカップ全国大会」で『環境大臣賞金賞』を受賞したことを地域や他施設への活動の輪を広げていく存在になるよう努めました。

④ 目標稼働率

上記の取り組みにより入居稼働率はユニット98%・従来型91%、空所利用と合わせ、年間稼働率98%を目指しました。

(2) 短期入所生活介護事業所

① サービスの充実化

三大介護の質の向上や、ご利用者様の話を聞き、寄り添ったケアを実施するなどのサービスをより充実させました。川崎市のショートステイといえばみどりの丘と言われるような選ばれる施設を目指しました。

② 笑顔あふれるショートステイ

ご利用者様のご帰宅される際に「また来ます」と笑顔で言ってもらえるような、魅力溢れたショートステイを提供できるよう見直しを行いました。

③ 急な受け入れにも対応

高齢者を取り巻く環境は、いつ何時変わるか分かりません。土日を含め 365 日いつでも相談員がいることで、緊急ショートにも柔軟に対応しました。

④ 135%以上の稼働率

令和 5 年度は、コロナと共生する新たな時代に入りました。
利用増加を見込み 135%以上の稼働率を目指し達成しました。

(3) 地域密着型通所介護事業所

潮見台みどりの丘通所介護は、令和 5 年 4 月 1 日より「地域密着型通所介護」としてリニューアルオープンしました。

コロナ感染症流行の影響もあり、より細やかな手厚いサービスを求める利用者が多くなっている昨今、小規模で一人ひとりのニーズに応えやすい地域密着型通所介護は地域のニーズにもマッチしたサービスと考えました。しかし地域に通所介護は乱立状態にあり、機能訓練型デイサービスや大手のデイサービスを希望される方が多くなりました。

この状況を踏まえ 10 月よりデイサービスは一時休止としました。

一方川崎市北部に 20 床の大型ショートステイはみどりの丘だけで在宅で頑張る家族様を支える必要性を強く感じました。日中はデイルームで活動的に過ごし夕方以降はショートエリアにもどり宿泊する「スマイルステイ」に切り替えを行いました。

(4) 居宅介護支援事業所

コロナの3年間は在宅で生活されている方にも変化がありました。
生活が困難になった方が笑顔で過ごして頂けるように適切なサービスに繋げました。
法人に属している居宅介護支援事業所の強味を生かし、ニーズに合った事業所として
地域の役に立ちたいと考えました。
平均稼働率 100%を維持出来ました。

VI.介護サービス指針

- ① 科学的根拠に基づいた質のよい介護を行う
多職種連携を深め、それぞれの専門性を生かした根拠のある介護を行うように努めました。利用者様の変化にいち早く気がつきチームケアに生かすように努めました。

- ② 笑顔あふれる施設
利用者の方、ご家族様、ボランティアさん、業者の方、そして働く職員ひとり一人すべての人が笑顔になれるような施設運営を目指しました。

- ③ スマイルケアの確立
どんな施設になりたいかの話し合いをつづけ辿りついた結果が利用者様の「笑顔」でした。利用者の方が笑顔になるようなスマイルケアの確立を目指しました。

- ④ 持続可能な施設運営
この3年間で学んだ感染症との戦い、また30年間に7割の確率で起きると言われている首都直下地震など防災に備えBCPの策定を行い不測の事態に備えました。

VII.提供するサービス内容

(1) 行事・イベント

感染予防に勤めながら実施した行事

4月	お花見（施設周辺）	フロア毎に実施
5月	端午の節句	筍ご飯
6月	開設記念日	松花堂弁当
7月	七夕	丑の日（うなぎ）
8月	花火大会	2F 実施
9月	敬老会	お祝い御前
10月	お月見	
11月	秋まつり	屋台メニュー
12月	クリスマス会	フロア毎に実施
1月	お正月	潮見神社フロア毎に初詣
2月	節分	フロア毎に実施
3月	ひな祭り	ちらし寿司
イベント	フロア毎に企画	
外出レク	花見・外食・買い物	
移動パン屋さん	好きなパンの購入	第1・3・水曜日に実施

(2) クラブ活動

クラブ名	内 容	開催頻度
囲碁クラブ	・初心者には入門教室がある ・囲碁仲間が集まり碁を楽しむ	実施せず
書道クラブ	・筆を持って書を書く ・季節に合わせた文字を書く	実施せず
音楽クラブ	ピアノ演奏に合わせてなじみの唱歌を 歌うことで楽しみにつなげる	実施せず
美容クラブ	・美容部員の方と一緒に化粧をする ・香りや化粧動作がリハビリにつながる	実施せず
手芸クラブ	日本の風習にちなんだ手芸品を作る	実施せず
シネマクラブ	懐かしの邦画・洋画を見る会	実施せず

VIII. 職員研修計画と活動

(1) 定例研修・学習会

職員のスキル向上のために実施した研修

実施月	研修内容	主催
4月	令和5年事業計画書 法令遵守・モラルについて	施設長
5月	高齢者虐待防止（身体拘束含む）と不適切ケアについて	副施設長
6月	食中毒の予防および蔓延防止に関する事例検討	栄養士
7月	事故の発生またはその再発防止について	事故防止委員会
8月	高齢者の体調変化と観察、夜間緊急時の対応	看護師
9月	認知症に関する研修	副施設長
10月	救命救急と緊急時の対応	介護主任
11月	感染症の予防・蔓延防止に関する研修と事例検討	看護師
12月	高齢者の安全な食事に関する研修	栄養士
1月	介護保険法とケアプランについて	介護支援専門員
2月	褥瘡および看取りに関する研修	看護師
3月	事故の発生またはその再発防止に関する研修	事故防止員会
随時	介護技術などの勉強会	介護主任

(2) 会 議

良い施設づくりのために行った会議

会議	出席者	開催頻度	主催
定例会	施設長、事務長、専門職 介護マネージャ・チーフ・ リーダー	第1木曜日	施設長
ケアトップ会議	施設長 介護マネージャ・チーフ	第2月曜日 第4木曜日	施設長
リーダー会議	介護マネージャ・チーフ リーダー	毎月	介護M
フロアー会議	介護マネージャ・チーフ 介護リーダー・スタッフ	月2回	介護リーダー
ナース会議	看護師、施設長、栄養士	毎日	看護
カンファレンス サービス担当者会議	介護マネージャ・チーフ 介護スタッフ（居担）、 栄養士、看護師、ご家族様	随時	介護支援専門員

(3) 委員会

改善を目指して開いた委員会

委員会	内容	開催日
入退所検討 委員会	・川崎市の指針に合わせた入居者選び面談を行う ・面談シートに基づき入所判定を行う	1回/3ヵ月
事故再発防止 委員会	・発生した事故検討と再発防止の提案 ・再発防止後の再評価を行う	毎月
感染予防委員会 褥瘡予防委員会	・食中毒および感染症防止の検討 ・コロナウィルスなど感染症防止の啓発活動	1回/3ヶ月
身体拘束廃止 委員会	入居者様の尊厳ある生活をして頂くためにも安易な 身体拘束をしないことを施設全体として取り組む	毎月
権利擁護委員会	・入居者様の権利擁護について話し合う ・不適切ケアを予防する	1回/2ヵ月
防災委員会	・年2回の避難訓練を実施 …安心して働く環境づくり（防犯を含む）	2回/年
笑顔になる 食事委員会	・笑顔につながる食事について考える ・選択食やリクエスト食など意向に添えるように	1回/3ヵ月
排泄委員会	・残存機能を生かした介助ができるように ・自然はお通じにつながるような支援	1回/3ヵ月
みんな元気に レク委員会	毎日の暮らしの中に体を動かす、手先を動かす 頭を使うレクリエーションを提案	1回/3ヶ月
SDG S委員会	神奈川福祉研究大会出場 SDG s活動を広める	8月まで毎月 9月～隔月

(3) プロジェクト

実施したプロジェクト

未 来 プロジェクト	開設 20 年目 2030 年の「みどりの丘」を考える	隔月
新卒採用プロジェクト	継続的な新卒採用に繋げる活動	随時
みどりの丘SDG s	かわさきゴールドパートナーとしての活動	随時

《 みどりの丘が目指したもの 》

介護だけの世界に留まらず社会の一員として、社会に発言できる存在でありたい・・・この長年の夢が叶った一年になりました。

ヨネッティの隣に開設したということもあり 13 年前から環境問題に真剣に取り組んできました。取り組み内容がSDGs活動とリンクしていることもあり「かわさきSDGsゴールドパートナー」に認定されました。

市が主催する「スマートライフスタイル大賞」に応募したところ『最優秀賞』を受賞しました。

この受賞がきっかけで川崎市から「脱炭素チャレンジカップ全国大会」に推薦され、神奈川県代表として2月16日全国大会に出場しました。

チャレンジカップに出場しているメンバーは自治体、企業、大学、高専など未来を見据えた取り組みでプレゼンも素晴らしく魅力的でした。それに比べみどりの丘はおむつを捨てる時にビニール袋を使わずに新聞紙で包むという・・・とても地味な内容でした。

「すべては小さな1歩から」の題で入居者様、ご家族様、ボランティアさん地域の皆さんの協力で13年間コツコツと続けてきたことを発表しました。戦略や成果を問うものではなく「人の役に立ちたい」と日本人なら誰でも思っている「人の生き方」を問うものと伝えました。

これが審査員の心を動かし『環境大臣賞金賞』、さらに視聴者投票で選ばれる『オーディエンス賞』とのダブル受賞となりました。

『オーディエンス賞』の副賞はなんとマクドナルドのハンバーガー1年分（ハンバーガー無料券365枚）を頂きました。

入居者様、職員、ボランティアさん、地域の皆さん365人にお配りして美味しく頂き、喜びを分かち合うことができました。

介護というマイナーな存在が世の中に認められた経験を糧に、今後も夢と希望を持ち続けたいと思います。